

リサイクル♥リユース♥チャリティー

WE21 ジャパンいずみ 1.2.3

2017. 冬



いわきの女性たちと繋ぐツアー

いずみ版織姫をめざして 綿摘みから糸繰り

11月13～14日、いわき市のNPO法人ザ・ピープルと企業組合おてんとうSUNが復興事業として取り組んでいるオーガニックコットン事業の綿摘みと、糸繰りに行ってきました。参加したのはWE21いずみの理事、スタッフ、ボランティアの12人です。



いわきは紅葉が美しい季節！行く先々で色とりどりの木々が、私たちを楽しませてくれました。

震災後、放射能に汚染された田畑を再生させるために、市民が農家と一緒に取り組んだのがオーガニックコットンの生産です。ボランティアの参加で年々、コットン畑も広がっ

てきました。しかし、苗植え、雑草取り、綿摘みの作業は多くの人の参加がなくてはできません。

いわきに着いた日は穏やかな一日で、たくさんの綿が私たちを待っていました。摘み方のレクチャーを受け、早速私たちの出番です！最初は話しながら摘んでいたメンバーもそのうち無口になり、1時間弱の間にすべての綿を摘み終わりました。これも、日常ショップでボランティアをしている賜物でしょうか…。採った綿を前に、皆大満足です。

2日目は、昨日摘んだ綿を糸にする工程のワークショップに参加しました。糸繰りから製品化に取り組む女性グループ「織姫の会」の5人が講師となり、私たちに教えてくれますが、なかなか見た目ほどうまくいきません。それでも糸になると、その楽しさ↑



が分かってきます。「経験を重ねれば、誰でもできるわよ」という彼女たちの言葉に励まされ、まずは機械を3ヵ月レンタルして、「いずみ版織姫さん」の育成に取り掛かることにしました。

糸ができれば、来年の3・11のイベントに飾るランプシェー

ド作りです。風船の上に糸を張り巡らせば、おしゃれなランプシェードの出来上がり！これを3・11の被災地イベントに飾る計画です。当日、私たちが作ったランプシェードが夜空に輝くことでしょう。

また津波の被災地は整地され、津波防止のために巨大な防潮堤が延々と続いていました。その6メートルの壁のために、海があるのに海も地平線も見えず、波の音だけが聞こえる不思議な光景に、複雑な思いを抱きました。

いわきのオーガニックコットンを横浜の私たちが糸にし、それをいわきの女性たちが製品化し、WEショップで販売する…糸が繋ぐ女性たちの連帯です。福島原子力発電のエネルギーを消費してきた一人として、少しでも責任を果たしていきたいと思

(理事 郡司)

